

船橋市自然散策会

松が丘・木戸川コースでの親子散策会

勝股 政雄（船橋市）

日 時： 2023 年 11 月 11 日（土） 9:30～12:00、天気：くもり

場 所： 木戸川沿い（船橋市）

参加者： 17 名（大人 10 名、子ども 7 名）

担当指導員： 山口、林、勝股、市役所職員；5 名

「船橋市に残る自然豊かな場所を歩き、親子で自然の大切さ、面白さを体感する。草花遊びなどを通じて自然を身近に楽しむ。」を目当てにして、秋真っ盛りのコースを歩いた。この散策会は、市役所環境政策課が主催したもので、春の散策会に続いて 2 度目であった。

この日は、くもり空であったが空気がひんやりし、穏やかな一日であった。海老ヶ作公民館に集合し、三班に分かれて出発した。初めは台地上に広がる畑で栽培されているダイコンなどを見ながら進むと大きなケヤキがたっている。木の下で枝付きのタネを拾い、ケヤキが風を使ってタネを遠くに飛ばす工夫をしていることを観察した。台地から低地に下り、斜面林沿いを歩いた。ノイバラの赤い実・ムラサキシキブのきれいな実・ヤマノイモの黄色い葉等を見つけ、その都度渡しておいたビンゴカードに思い思いに記入させていった。コナラの実が落ちているのに気付いた子がそれを拾って眺めている。すかさず「この実から根が出るのだけれどどこから出るとお思いますか？」と投げかけた。しばし話し合った後、実を割って根が出る部分を見つけさせて正解を理解させた。歩いていると前のグループから赤とんぼとイナゴが入ったプラカップが回ってきた。早速みんなでじっくり観察した。

道の左手には、こんもりした林が、右手には草原が広がっている。林の奥の方から鳥の甲高い鳴き声がした。子どもたちに「どんな鳥が鳴いているのだろうか？」と投げかけた後、ヒヨドリの写真を見せてあげた。緑いっぱい道を歩いていたら、子どものズボンに引っ付き虫がくっついてた。ついているものを取って「これ、なぜくっつくのかな？」と聞いてみた。「とげとげがあるよ」と反応があった。虫眼鏡で良く見させた後、コセンダングサのタネの写真を見せて引っつくわけを確認させた。先を歩いて行ったら草原にオオオナモミがあった。用意しておいたオナモミダーツの的を職員が持ってくれ、みんなでオオオナモミの実を投げつけて遊んだ。子どもたちも大人も大喜びだった。もちろん終わった後は虫眼鏡でくっつくわけを確認できた。

次の遊びは、ドングリパチンコだった。人差し指と中指に輪ゴム二本を 2 センチ程離して通してからセロテープで巻き付けてパチンコを作り、ドングリを飛ばして遊んだ。ここでも的を使い、狙い定めて飛ばした。皆歓声を上げながら遊んでいたが、小さい子にはパチンコを作ることが難しかったようだった。遊んだ後、斜面林を離れ、木戸川の川沿いを上流に向かって歩いた。土手と川面と水田など、広々とした景色の中をゆったり歩いて公民館に戻った。

この散策会で、色づいた木や草の葉や実を観察したり草花遊びをしたりして、参加者には秋の自然を十分に感じてもらえたのではないかと思えた。

